

2021 J3 ■順位表 ■第28節

勝点、得失点差、得点、失点、  
岐阜戦の戦績（岐阜から見て）  
（注：#印は消化試合が  
数字分多い）

1	熊本	51p	+18	37	19	H●
1#2	宮崎	50p	+12	43	31	HO A●
3	岩手	49p	+14	41	27	AO H△
4	富山	45p	+7	39	32	A● HO
5	福島	41p	+7	38	31	AO H●
6	岐阜	40p	+5	38	33	---
7	鹿児島	39p	+1	33	32	HO A●
8	YS横浜	37p	-3	28	31	H● AO
9	長野	32p	+5	33	28	A● HO
10	藤枝	31p	+3	42	39	AO
11	八戸	29p	-14	24	38	H△ A●
12	今治	26p	-2	31	33	A● HO
1#13	沼津	26p	-12	31	43	HO A△
14	鳥取	23p	-22	30	52	AO H●
15	讃岐	20p	-19	18	37	HO A△

今季も  
1年間のご愛読  
ありがとうございました。

**大酒場 ホームラン**

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）  
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より  
「おかえりなさい」が似合う  
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は  
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。  
休:月曜日

today's guest : 藤枝MYFC

2020 J3 14勝7分13敗 勝ち点49:10位

直近の対決と結果

2021/03/21  
J3 - 2 節@藤枝サ

藤枝 1-3 岐阜

川西翔太, 中島賢星,  
三ツ田啓希 scored.

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜	藤枝MYFC
2021/10/21 J3 - 28節@ブラスタ 八戸 2-1 岐阜	2021/10/20 J3 - 28節@藤枝サ 藤枝 0-1 鹿児島
2021/10/14 J3 - 27節@ユニスタ 宮崎 4-3 岐阜	2021/10/14 J3 - 27節@藤枝サ 藤枝 2-0 八戸
2021/10/07 J3 - 26節@長良川 岐阜 2-0 富山	2021/10/07 J3 - 26節@A x i s 鳥取 4-3 藤枝

●残り5節となった2021年J3リーグ。その5試合を5連勝するしかJ2自力昇格の道が残されていないFC岐阜。11/7 (日) 第26節・ホーム富山戦は、お互いに拮抗した展開だったが、試合終了間際に#22 船津徹也がゴールを決めて均衡を破ると、AT(アディショナルタイム)には#24 栗飯原尚平が追加点を挙げ、2-0で勝利。そして大一番となる11/14 (日) 第27節・アウェイ宮崎戦だったが、前半に#10川西翔太が先制点を挙げるが、前半ATに追いつかれる。後半開始直後に#19窪田稜のゴールで再びリードするものの、宮崎の猛攻で3失点。後半ATに#17 藤谷匠のヘッドで1点差に追いつくが、3-4で敗戦。そして11/21 (日) 第28節・アウェイ八戸戦では、前半に2失点。勝つためには3点が必要な岐阜だったが、攻撃が機能しない。ようやく後半ATに#16 富樫佑太がゴールしたのみで、1-2で岐阜が敗れた。

この結果、FC岐阜は今シーズン残り2試合を連勝しても勝ち点は46。今季J2昇格の可能性は完全に消滅し、来季もJ3でシーズンを迎えることになる。しかし、今シーズンは2試合残されている。チームとしては来季に向けた動きも始まると思われるが、選手たちにはシーズンが終了するまで、目の前の1試合で最後まで勝利を目指すということ、全員がひたむきに走り抜き、自分や仲間を信じてプレーし、1点でも多くゴールを奪うということに90分間全力で集中して欲しい。そして、このJ3リーグで戦うFC岐阜を僕らサポーターが支えて応援をするのは、優勝や昇格のためだけではないはずだ。このホーム長良川で、応援するチームが活躍し、勝利するときの喜び。この地域にJリーグがあり、「非日常」の時間を日常的に楽しめるという意義。そして、それらを支えてくれている地域社会などへの感謝。改めて、僕らもそういったものを感じながら、しかし試合では常に勝利を目指してゆこう。

さて、今節の対戦相手は藤枝MYFC。昨季は初めてJ2ライセンスを取得しJ2昇格を目指したシーズンだったが、結果は10位に。今季は、岐阜での指揮経験もある倉田安治監督を招いて体制を一新したが、今季も順位が低迷して第14節終了時点で倉田監督は退任。後任に須藤大輔氏が就任したが、成績は向上せず現在の順位も10位。ただし、藤枝は得点数リーグ2位・失点数ワースト3位という激しい点の奪い合いをするチームで、この試合も藤枝のペースになると非常に危険だ。藤枝で最も注目すべき選手は、やはり現在6ゴールを挙げている#10 押谷祐樹だろう。09年に磐田から期限付き移籍してJリーグ初出場そして初ゴールを果たし、3シーズン19ゴールを挙げた彼が、先日にはJ通算300試合を達成して長良川に帰ってくる。その活躍は嬉しいものだが、今節に関しては活躍させてはならない。同様に、かつて岐阜に在籍した#41 清本拓己(13~15年、関市出身)も古巣対戦に燃えているだろう。直近7試合で5得点と好調の#8 岩淵良太や、精度の高い左足を武器とする#7 鈴木惇にも警戒が必要だ。また、先日現役引退が発表された#20 森島康仁・#14 谷澤達也・#24 那須川将大の出場にも着目したいところだ。藤枝との通算対戦成績は2勝1敗・6得点5失点。前回ホーム対戦の11/21 (土) 第29節は、前半に#10川西のワンタッチゴールで先制するが、後半に#14谷澤に押し込まれて同点に。しかし、#16 富樫が決勝ゴールを挙げて2-1で勝利。そして前回対戦の3/21 (日) 第2節・アウェイ戦は大雨の中、#8 中島賢星が月間ベストゴールにも選ばれたスーパーミドルを決めるなど1G2Aと大活躍し、藤枝を3-1で制している。FC岐阜のホーム最終戦である今節は、しっかりと勝ちきって2021年の“有終の美”を飾って欲しい。

今シーズンも終わりを迎え、少しの休憩を挟んで、また新しいシーズンがやってくる。新型コロナウイルスによる感染者数は全国的に減少しているが、海外では感染が再拡大している国も多く、引き続き警戒が求められる。一方で“ポストコロナ”のスタジアムとして、「ワクチン・検査パッケージ」の実証実験が続けられ、そして遂に、ホーム最終戦に「大旗の使用」と「タオマフを振り回す行為」が解禁された。まだ、感染防止の徹底が求められ、マスクを外したり声を出すことは禁止されているが、可能になったことを最大限に活かして、戦う選手たちの後押しをしていこう。僕らFC岐阜サポーターは、声を出して選手を鼓舞したい気持ちを抑えつつ、スタジアムをゲーフラや振られるフラッグ・タオマフで緑に染め、拍手や鳴り物の音をスタジアムに響かせよう。今節でホーム戦最後となる、2021年シーズンの選手たちの活躍を目に焼き付けて、勝利の歓喜を分かち合おう。そして来季も再び、このホーム・岐阜メモリアルセンター長良川競技場に集い、僕らのクラブ・FC岐阜を支えていこう。(ささたく)

投稿募集!! [gidaidohri@gmail.com](mailto:gidaidohri@gmail.com)

## 【第26節】岐阜 2-0 富山

●あまりに勿体ない、沼津戦での引き分け。残り5試合を全勝しないと厳しい状況に陥って、昇格を争うライバル・富山をホームに迎えての一戦。僕は、沼津戦でシュート6本に終わった攻撃陣を変えてくるかと思ってただけど、累積警告で出場停止だった#8中島賢星が復帰したほかは同じスタメン。そして、両チームとも勝たなければならないけれど、一方で失点を警戒して中盤での差し合いが続く展開。両チームとも数回、惜しいチャンスがあったけれどゴールが生まれず前半は終了。ただし後半開始から、(おそらく前半に負傷した) #2橋本和に替えて#7村田透馬を投入したことで、少し岐阜の攻撃が活性化されたように感じた。だけど、どうも選手の連携や距離感が悪いのか、あるいは思い切りが悪いのか、相変わらずチグハグな攻撃が続く。何度か惜しい攻撃シーンで得点できずに、このまま終わってしまうのか……と頭の片隅に嫌なイメージがちらついてきた後半85分、#16富樫佑太がPA内に切り込んで縦に出したボールを、裏抜けした#10川西翔太がマイナスに折り返す。逆サイドで#22船津徹也がフリーで待ち構えて……ええ、僕も含めて、周りみんな『撃て!』って声が出てました(苦笑)。歓喜の先制点、さてこれを死守する長く苦しい時間が……と思っていたら、後半ATに#16富樫がカウンターでピッチを駆け上がり、#10川西に渡すと再びボールを貰い、中央で撃つと見せかけて右を上がってきたフリーの#24栗飯原尚平に……ええ、ここでも『撃て!』と声が出てしまいました(苦笑)。終わってみれば2-0の快勝。いくつか勝負のアヤがあったと思うけれど、後半73分に富山の控え選手が(おそらく副審への暴言で)警告を受けたことも重要だったかなと思う。これで富山は、攻撃的選手の投入が制限されてしまった。それと、岐阜の選手交替が奏功したことかな、珍しいことに(笑)。ただ、逆に言えばスタメンでは得点が奪えていないのも事実。特に、決めて欲しいシーンで得点できなかった#19窪田稜と#44深堀隼平には、問題意識を持って欲しいと思う。

“大一番”の五番勝負(苦笑)、第一番はなんとか勝てて、首の皮一枚が繋がった。一方の富山は3連敗、しかも考えてみれば、(かつて自分のチームをJ3に降格させた)安間監督の率いるチームと対戦して、(かつて在籍していた)#22船津にゴールを決められて負けるといのは、想像するに相当に厳しいことだろう。僕らも、最終節でそうならないようにしなくては、そう思った。(ささたく)

●いい試合でした。今季最多のお客さんに見ていただくのに相応しい内容と結果だったのではないのでしょうか?(富山サポを除く)。

特に、先制点に至る流れはエクセレント。あいチャンのダメ押しも素晴らしかった。コレが、彼の今季初ゴール、という辺りが、ある意味、現状を表しているのかもしれない。もっと、結果を出してくれる選手だと思っただけでいい。言いたいことや思うところはありますが、とにかく、今のところは、今季のベストアウト、と言っていいんじゃないでしょうか。今のところは(笑)。

とりあえず、で土壇場をひとつ越えました。でも、まだ、ひとつ越えただけ。次節は、さらに土壇場ですよ!やることはひとつ、です。(ぐん)

●残り試合、全部勝つしかなくて、全部勝たにしても昇格争いの相手次第で。そんな中で行われた生き残り戦。隣の県とはいえ、富山サポーターも多く来てくれて。

前半はメソ岐阜押しで互角のスコアレス。でも、相手は知将で鳴る石崎ノプリンだ。昨年、アウェーの藤枝戦でコッテンパンにやられたことは忘れられない。だから「様子見されてるんじゃないか」という不安は消えなかった。後半の飲水タイムになっても動かない富山ベンチにもうびくびく。でも、これは仕掛けて来ないんじゃないかと仕掛けられない状況なんじゃないか、とも思い始めた頃に岐阜先制。左サイドから、

栗飯原→富樫スルーパス→川西の折り返しに右WBの船津がフリー。富山の選手の動きが急に落ちたように見えた時間帯だった。

追加点も、同じようなところから今度は栗飯原が。富山は調子が下降線だったのかもしれないけど、大量点が取れそうにない相手に2-0は、ほぼ理想的なスコアと言っていいだろう。ぼくの周囲では「この試合運びがあと二月、せめて一月前に出来ていれば……」という声が多かった。でも、しょうがないよ。攻撃的に前に張る右WBの後ろのスペースを誰かがケアすれば、相手はそこからの仕掛けが出来なくなって脅威が激減するってことに、そこはさすがにプロの監督だから気づいてはいただろうけど手を打ってくれなかったんだから……なんてね(笑)。(吉田铸造)

## 【第27節】宮崎 4-3 岐阜

●“大一番”の二番勝負、富山戦よりもさらに重要な、2位・宮崎との試合。引き分けも許されない、勝つしかない一戦に、現地に乗り込む約100名の岐阜サポ。試合は序盤から宮崎がボールを支配して攻め、岐阜はカウンターを狙う展開に。すると前半20分、相手DFのGKへのバックパスを#10川西翔太がインターセプトし、先制ゴール!しかし、その後も宮崎の攻撃は続く。とにかくよく走り、そして早い。縦に仕掛けてシンプルにボールを素早く動かしていく感じ。その運動量を活かした攻撃で体力を奪われる岐阜。そして我慢しきれずにPAの目の前でFKを与えてしまい、これを前半ATに直接決められて同点にされてしまう。“ここしかない”というゴール上隅に、ズドンと突き刺すシュートだった。不安に思いながらの後半、するとワンチャンスを活かした岐阜が49分、#19窪田稜がゴール前で頭で押し込み追加点!しかし、再び宮崎の猛攻が岐阜に襲いかかる。その豊富な運動量とフィジカルの強さで、多少パスコースが雑でもボールをキープし繋いでゆく。その迫力に岐阜のDFラインが下がってしまい、空いたスペースに走り込まれ……ほとんどボールを支配されたまま、悪夢のような3失点。直後に飲水タイムがあり、ようやく岐阜も修正できたのか、あるいは流石に宮崎も疲れたのか(苦笑)、岐阜も攻勢に出るが、如何せんゴールが遠い。ファール判定にしてほしくなかった場面もあった(笑)けれど、それにしたってチームとしてスイッチを入れるのが遅すぎる。ようやく1点を返せたのは後半AT。そして3-4で敗戦。選手個人の能力差を、運動量とフィジカルでカバーし、かつ自分たちのサッカーに自信を持ってプレーした宮崎は、本当に強かった。このチームに、どうやって前回は勝てたんだろう…(溜息)。これで勝ち点で宮崎に届かないことが確定。そして1時間遅く始まった試合で熊本が2点リードしてたので、これはもう“終わった”と覚悟を決めたんだけど、なんと熊本が引き分けて“まだ終わっていない”ことに。熊本と岩手の失速を期待しつつ、戦い続ける苦しい旅は続くのでした。(ささたく)

●この試合は、地元クラブにとっての正念場。朝イチで散髪に行き、ゲンかつぎの屋メシを喰って、DAZN観戦に臨んだワケですが……。結果は3-4で敗戦。しかし、一点差とはいえ、力量の差を感じざるを得ませんでした。チームの完成度、攻撃の型、いろいろな面で相当の差がありましたね。

「前半をリードして折り返せてたら」「富樫のはファールじゃないよなあ」等のエクスキューズはあるにせよ、宮崎の得点はどれも狙った形からのもの。ウチの先制点は、相手DFからのプレゼント・パス。後半開始直後に勝ち越したものの、そこから3点取られての逆転負け。2点目のゴールなんか、アシストになったヘディングは完全に余裕を持って、フリーの味方へ落としてたし、シュートも完璧。横綱が平幕に胸を貸してた感がありましたね(苦笑)。おまけに、同じような位置から蹴ったFKの差。2つのFKに絡んだのが42番ってのも、何か象徴的な感じがしますね。いや、全くとって、言葉通り

の『完敗』でした。脱帽です、宮崎さん。長良川でお会いした時とは全く別の『オトナなサッカー』を見せていただきました。ぜひ、優勝してください。

この結果と、途中経過で、首位・熊本が2-0とリードして、ハイ、しゅ〜りょ〜！……になるかと思いきや、気がついたらドロウになってた。熊本がシクったのか、富山が意地を見せたのか。どっちでもいいんだけど、結局、うっす〜い皮ながら可能性は残ったようです。コレでクラブ史上最速で希望消滅かあ、切り替え、切り替え〜と思ってたのに。いっそ、ひと思いに……っていうワケにはいきませんか？でも、毎年、取り掛かりが遅すぎる弊クラブにとって、こういう状況は、今までを一変させるチャンスだと思うんですが。いや、とっくに来季への準備は始めてると思ってますけどね。とりあえず、キックオフのマイボールを何の意図もなく相手に渡さないサッカー、あと、スローインをマイボールにすることが出来るサッカーを見せてください。楽しみにしてます♪

ところで、いったい、なんのためにパウロンを帯同させてたんですか？タクミのゴールはもちろん、富樫のヤツも含めて、セット・プレーには自信がある。ならば、鹿児島戦であわや、のヘッドを放ったパウロンを入れない理由がわからない。『大作戦要員』じゃないの？絶対勝たなきゃならない試合に出せない選手なら帯同させるべきじゃない。フレッシュな選手を入れて、同じ展開を続ければイケる……とでも思ったのかしらん。なんというか、ウチの指揮官殿は『勝つ事へのこだわり』よりも『勝つ為の手段(=自分の考えた戦術)へのこだわり』が強いように見えるんですよ。

さて、残り3試合です。応援してよかったと思ってもらえるシーズンにできそうですか？(ぐん)

●完敗だった。1点差だけど、完敗。おいおい、「0-1だったけど手も足も出なかった」という1点差の完敗はよくあるけど、3点も奪って置いて完敗はないだろう？とお思いでしょうか。ぼくは現地で見ている完敗という感想しか浮かばなかったです。

何が違っただって、「チームで何をやるか」の差が歴然としていた。極端に言うと、パスなりオフ・ザ・ボールの動きなりを洗練させて「フリーの選手『を作る』ことで攻撃する」宮崎と、そういった仕掛けを行わずに「フリーの選手『が出来る』ことで攻撃する」岐阜、とでもなるろうか。特に、宮崎の2点目と4点目は、「あー、そこでフリーの選手が出来ちゃうの！」というところにちゃんとボールが出てきて、しっかり決められた。参りました。宮崎、強いです。

さて、なぜ宮崎は強いのだろう。その答は、スタジアム最寄り駅からの徒歩ルートに用意されたチーム・スローガンにあると思った。『真摯。真面目。ひたむき。』3昇格1年目の宮崎は、自分たちの立ち位置を冷静に認識し、真面目にひたむきに練習に打ち込んで、いまのサッカーを手に入れた。だから、自分たちのサッカーに『自信』がある。負けたとしても、『自信』があるからブレない。さて、では今季の岐阜は？上に書いたことのすべてとは言わないけど、かなりの部分で「真裏」になっていたり、してないかな。だから、『完敗』なんだ。3-4の1点差でも。(吉田鑄造)

## 【第28節】八戸2-1岐阜

●残り3試合、自分たちは勝ち続けて熊本と岩手が勝たないという、まさに“ダサンダー”全開状態(苦笑)の岐阜。ただし、その奇跡的な展開を引き寄せるためには、自分たちが勝たないと話にならない。その覚悟をチーム全体で共有できてたんだろうか、と僕は思ってしまう。宮崎とは少しタイプが違うものの、八戸も攻守に豊富な運動量でプレーの精度をカバーする戦術。そのチームを走らずに崩すには、相当に精度が高いパスがないといけなくて僕は思うんだけどなあ……(溜息)。宮崎戦と同様に、あるいは宮崎戦で研究されたのか、DFラインが下がったスペースでフリーで撃たれて2失点。

一方の岐阜は、#10川西翔太のオフサイドを採られたプレー以外は決定機も無く、前半はシュート数が八戸の8本に対し、岐阜はわずか1本。おいおい、相手はホーム最終戦とはいえ、12位のチームだぞ……(溜息)。さすがにロッカールームで檄が飛んだのだろう、後半になると岐阜が攻勢に出るが、素早く身体を寄せてボールを奪い、ゴールを守る八戸の守備に、シュートを撃ってもゴールを割ることができない。ジリジリと時間だけが過ぎてゆき、ようやくゴールネットを揺らすことができたのは、後半A T……えーと、先週にも似たような展開の試合を見たような気がしましたが、気のせいでしょうかねえ……(溜息)。

まあ、八戸には申し訳ないけれど、こんな試合を下位チームにしてるようでは、今季昇格できるハズがない。わずか“蜘蛛の糸”1本だけ残っていた可能性を、自ら切ってしまったような、今季の岐阜を象徴するような試合だったと思う。非常に残念だ。(ささたく)

●空は晴れて風もなく、絶好の観戦日和でした。以上。いや、本当に掛ける言葉がない。拍手も出来ない。そんな感じでした。あ、これだけは書いとこう。2,000人を超える観客と地上波(青森テレビ)でのライブ中継を見てる方に、ホーム最終戦での勝利をプレゼントしたヴァンラの選手たちはステキでした。ウチはどうかな？(ぐん)

## 【ホーム最終戦恒例】今季のベストゲーム・ベストゴール・MVPは？

### ◆ベストゲーム

#### 第3節 ホーム 讃岐戦

「もう結果しか評価するところがない」サッカーを1シーズン続けて見せられたので、一番結果が出た(得失点差を稼いだ)試合にします。他の評価基準に意味なんてないの。(吉田鑄造)

#### 第4節 アウェー 鳥取戦

試合が終わった瞬間、目頭が熱くなってしまうがなかった。「焼肉パワ」が耳に残る。『岐阜のために戦える選手たち』というのを実感できた。あの時には、こんな結末を迎えるとは思いませんでした。ただ、奇跡の昇格を果たせてたら、ホーム富山戦を選んでた。(ぐん)

#### 第26節 ホーム 富山戦

やはり、ベストゲームは“ホーム戦から選びたい主義”を貫きたいので、11/7(日)第27節・富山戦[2-0]を選びます。シーズン終盤の上位対決で後半終盤まで続くゼロ展開、その後の劇的な2点のゴールそして零封での勝利は、最近の試合ということもあり(笑)、非常に印象的です。次点には、最後に#10川西翔太の決勝点で勝利した6/27(日)第13節・鹿児島戦[1-0]と、『宮崎に勝ったことがある』と誇りたい(苦笑)、6/12(土)第11節・宮崎戦[3-1]を挙げます。(ささたく)

### ◆ベストゴール

#### No.7 村田透馬 3節(3/28) ホーム讃岐戦

右からの低いクロスを綺麗に合わせたもの。やっぱり彼はワンタッチ・ゴラーだよな……と思ったけど、実はこれが彼のJ初ゴール。あれ？彼がワンタッチ・ゴラーだという印象は、どこから？それまで彼のゴールシーンを観ていないのに(苦笑)。(吉田鑄造)

#### No.8 中島賢星 2節(3/21) アウェー藤枝戦

雨風の中、コースを狙い澄ましてGKの手前でワンバウンドさせた無回転FKは、3月のJ3月間ベストゴールにも選ばれたスーパーミドルでした。(ささたく)

#### No.8 中島賢星 14節(7/4) アウェー長野戦

CKを胸トラップからの一撃。同じくアウェイ・藤枝戦のFKとどちらにしようか悩んだけど、長野戦のヤツの方がデザインされたゴールというか、ひと手間(CK)掛けてる分、味わい深いな……ということ。(ぐん)

## No.4 甲斐健太郎

現在 13 ゴール、J3 得点ランクトップの #10 川西翔太を挙げようかと悩みましたが、ここは今季キャプテンを務め、鳥取戦以外はフルタイム出場を果たしている CB の絶対的な柱・#4 甲斐健太郎を選びます。J3 優勝 & J2 昇格を目標に掲げたチームでのリーダーの重責は、如何ばかりであったかと思うと、本当に頭が下がります。残念ながらその目標は達成できませんでしたが、J3 に降格が決まった 2019 年にキャプテンを務め、その重責でサッカーを辞めてしまった（なお今は現役復帰し、JFL・マルヤス岡崎に所属）阿部正紀選手のことを考えると、杞憂だと思いますが、#4 甲斐選手には『（前略）サッカーのことは嫌いにしないでください』と、つい僕は願ってしまうのです。（ささたく）

## No.42 柏木陽介

いま思い返しても恐ろしくなる。シーズン途中で柏木が（本意な理由だろうが）フリーになって岐阜に移籍してこなかったら、このチームはどうなっていたんだろう、と。昇格争いどころか、順位表の上半分にも入れなかったんじゃないか。彼が MVP に相応しい活躍をしたとは思っていないけれど、それでも最も価値（Value）のある選手だった。【MVP（当社比）】とご理解ください。（吉田铸造）

## 該当者なし

あえて挙げるなら安間貴義さん。ラジー賞的な意味で。（ぐん、）

## 今季の、そして 来季の FC 岐阜へ。

●まずは昨季に引き続き、このコロナ禍の中で、最後まで試合が開催されたことについて、御尽力された関係者の皆さまに対して、心からの感謝と敬意を申し上げます。また感染防止対策を徹底しつつ、スタジアム運営をしていただいたおかげで、これまでスタジアムはクラスター化せず、また徐々に禁止事項も緩和されています。本当にありがとうございます。しかし、運営面では新型コロナ対策ができた一方で、チームとしてはどうだったのか、若干疑問に感じない訳ではありません。もちろん陽性反応者が出てしまうことには、仕方が無い側面があると思いますが、例えば五輪中断期間中に集団ワクチン接種をするなどの対策はできなかったのか。そして、その中断期間中に予定していた練習試合がすべて中止になってしまったことが後半戦の不振に繋がったとのことですが、そもそも、そういったリスクを考慮したチーム強化を何故しなかったのか。今後、全国で3回目のワクチン接種も予定されており、来季も新型コロナ対策をしながらのリーグ戦になることが想定される以上、新型コロナ対策に関してもしっかりと総括して、来季に反映させて欲しいと思います。さて、今季も FC 岐阜は J2 に昇格（正確には“復帰”なんでしょうけど）することができませんでした。来季は3季目の J3 を戦うこととなります。昨季は初めての J3 でしたので前年とのデータ比較をしませんでしたが、2季目の今年を出してみます。

2020 年 34 試合 16 勝 8 分 10 敗・勝ち点 56  
（勝率 0.47・1 試合当たり勝ち点 1.65）

2021 年 26 試合 12 勝 4 分 10 敗・勝ち点 40  
（勝率 0.46・1 試合当たり勝ち点 1.54）

そして、今季の戦績を五輪中断の前後で分けると、

2021 年前期 14 試合 8 勝 1 分 5 敗・勝ち点 25  
（勝率 0.57・1 試合当たり勝ち点 1.80）

2021 年後期 12 試合 4 勝 3 分 5 敗・勝ち点 15  
（勝率 0.33・1 試合当たり勝ち点 1.25）

……まあ、想定通りのデータとなりました。後半戦になって

勝てていないのが、今季のチーム不振の大きな要因であると分かります。

一方、現在も J3 優勝争いをしている（そして、前半戦終了時には岐阜よりも下の順位だった）熊本・宮崎・岩手を比較してみましたが、どのチームも後半戦に調子が上がり、1 試合当たりの平均勝ち点が 2 を超えています。一方の FC 岐阜は、シーズン終盤になっても他のチームよりもチーム強化ができなかった、あるいは研究されて対策されるようになったので勝てなくなった、ということもできるでしょう。また、これも既に指摘されていることですが、下位チームへの取りこぼしの影響が大きいです。どのチームに勝っても勝ち点 3 は変わらない。ならば、下位チームには“獅子は兎を狩るにも全力を尽くす”が如く、絶対に勝とうとする姿勢が一層求められるでしょう。

では、3 年目の J3 となる FC 岐阜はどうなるのか。先日の新聞報道などを鑑みると、やはりスポンサー収入の減少は避けられず、また Jリーグ分配金（降格救済金）も減少する（1.2 億→0.9 億。なお J3 分配金は 0.3 億）ことが決まっています。そして、今季は J2 からの降格チームがあります。J2 ライセンスを持たない宮崎の最終成績によって降格は 3 または 4 チームになりますが、彼らは降格救済金 1.2 億を受け取るため、その時点で岐阜とは予算規模に差が出てくる。そうなってくると、今季のように『J2 復帰』を達成目標とすることは、言うのは簡単ですが、実現するのは残念ながら大変な道程になるでしょう。振り返ってみると、これまでの FC 岐阜は、資金難であったり J2 残留や復帰であったり、良くも悪くも『目の前の 1 年を何とか乗り切る』ことに全力を尽くしていた感があります。しかし、これからはもう少し、中長期的なクラブ戦略・チーム強化方針を立ててゆく必要があると、僕は思います。

## (1) まずはチーム方針を

このクラブがどういったチームでリーグ戦を戦うのか、その方向性を大まかに決めた後に、それに適した『指揮官選び・選手選び』をするという大事な部分が、あまりしっかりしていないのが岐阜の現状だと感じます。また、その際の『選ぶ目』も磨く必要があります。途中加入の選手を全く試合に起用できないのは、その端的な例ではないでしょうか。

## (2) フィジカル強化を軽視しない

J3 の傾向として『パス精度の低さをカバーするため、ドリブルで仕掛け、フィジカルを活かすサッカー』をするチームが多いと思います。それを個人の技量で何とかできれば良いんですが、今季がそうだったように、何とかできない場合が多いです（苦笑）。なでしこが東京五輪で負けたのもフィジカルの弱さが要因だと分析されています。しかも、来季の J3 にはアンダーアーマー社が全面支援する“フィジカルモンスター”いわき FC が JFL から参入します。そして、来季は全 18 チーム・34 節で行われる J3。猛暑の岐阜で戦い抜くためにも、フィジカル強化は必須です。

## (3) 若手選手の育成・強化にさらに注力を

予算規模が減少する以上は、人件費、特に選手費用の減少は避けられないでしょう。そうすると、将来有望な若手選手の獲得・育成がますます重要ですし、その環境整備（クラブハウスや寮の整備）にも資金投入が求められるでしょう。4 年前の岐阜は、古橋亨梧というとんでもない“金の卵”を見つけました（笑）。なかなか見つからないでしょうが、そういう努力は必要だと思います。また、来季からはホームグロウン制度が J3 でも本格化します。アカデミー初となる石坂亮人選手のトップ昇格や、FC 岐阜 U-15 が初めて、日本クラブユースサッカー選手権本大会に出場したことなどは、本当に嬉しいニュースでした。

## (4) チーム戦術を徹底する

先述した内容とも重複しますが、しっかりしたチーム戦術・決まり事があれば、素早いプレーができ、また選手が替わっても同様のチーム戦術が期待できるはず。それを選手個

人の技量や判断に（過度に）任せるのは、長いシーズンを戦う上で、圧倒的に不利です。若手選手の育成の意味でも、非常に重要だと思います。

（5）ホーム戦を重視する

今季はコロナ禍の影響で、スタジアムでのイベントやスタグル販売が制限された試合が多かったのですが、それでもJ3では圧倒的といえる“地域のお祭り”感が今季も継続されたことに対して、スタッフの皆さんには感謝と敬意しかありません。ただし、“サブメニュー”は充実していても、“メインディッシュ”の試合内容そのものは…ということが、残念ながら今季も多かったと思います（溜息）。ホーム戦で主要スポンサー様の『サンクスマッチ』で惨敗するとか、もう止めてください。それに、アウェイに遠征するサポーターよりも、ホームに集う観客の方が圧倒的に多いのだし、ホーム観客数の増加はスポンサー獲得にも好影響だと言われています。先述した『どのチームに勝っても勝ち点3は同じ』とは矛盾するかもしれませんが、『ホーム戦では絶対に負けない。無様な試合はしない』という方針を、しっかりとチーム内に浸透させて欲しいです。

……と書き連ねてみましたが、実はシーズン中にも何度か書いておりました（苦笑）。ただ僕は、このクラブのサポーターを止めるという選択肢を（今のところは）持っていません。2009年だったかな？に某新聞のインタビューで発言したように、『このクラブは自分の子供のようなもの』。なんだかんだと文句を言いながら、僕は『このクラブとチームを応援する』つてことに関しては、来季も変わらないと思います（苦笑）。サッカーが地域にある日常、スポーツで生活が豊かになる社会、いわゆる『Jリーグ百年構想』を、新型コロナ感染防止に注意しつつ、僕は来季も一生懸命に謳歌してゆきたいと思えます。

なお昨季に引き続き、今季の『岐大通』もスタジアム内での配布という異例の形式を採らせていただきました。クラブの格別のご配慮にも、心から感謝申し上げます。来季の配布体制はどうなるのかな？……というか、そろそろマジで後継者（お手伝いしてくれる人）が増えてくれないと、僕らの制作体制の方がヤバいかも！記事投稿や、お手伝いしてくれる方は随時募集しております！（笑）（ささたく）

●現時点でのFC岐阜はJ3で6位。昨季の最終順位も6位だった。昨季の上位2チームがJ2に昇格し、J2から降格がなかったことを考えれば、順位的には後退したことになる。では、チームとして後退したのか？という問いには答を出すことが出来る。「明確に、後退した」と。

はっきり書きます。前年までJ1クラブのトップチームのコーチをしていた人間が、ここまで雑なサッカーをさせるとは、雑なサッカーしか作れないとは、想像だにしていなかった。「いずれ美しく」とかいうスローガン（標語？）が出回るようになっていたけれど、もしかしたら監督もクラブから「いずれ美しいサッカーが出来るようにしてくれ」とのオーダーを受けていて、「だったら1年目はこんなモンでいいだろ」と雑なサッカーだけやっていたのかもしれない。「クラブがそんなオーダーをするはずがない」と信じたいけどね。

漏れ聞こえて来た、秋ごろに行われた監督へのインタビュー記事は衝撃だった。戦略も戦術もなく、さらにはチームを戦闘集団にすることすら出来ない。ただただ、シーズン1つを浪費して終わったというのが今季だった。

プロ・サッカーの選手や指導者は「サッカーをやる場所を見せる」のが仕事だ、と思っているのではないだろうか。そんなことはない。そんなはずはない。サッカーに限らず、プロ・スポーツの選手や指導者の仕事は、観客やサポーターの心をポジティブな方向に揺さぶること。もちろん、試合に負けることだってある。それでもファンが離れないのは、ポジティブ方向に揺さぶる要因が試合結果や内容だけではないからだ。自分の住む街に、自分の故郷にプロ・スポーツがある。それ自体が心をポジティブ方向に揺さぶるアイテムになる。しかし、だからといって「プロ・スポーツの選手や指導者の仕事」

が変わるわけではないのだ。さて、今季のFC岐阜は、声援を送ることも出来ず、太鼓とクラップでしか愛するチームを鼓舞できない環境でも長良川に来てくれた観客やサポーターの心をポジティブ方向に揺さぶることが出来ただろうか？

『岐大通』は投稿紙なので独自のオピニオンは持たないが、これは編集担当の個人的見解として、「結果としてポジティブ方向に揺さぶれなかった」のではなく「ポジティブ方向に揺さぶる気がない」試合内容しか提供出来なかった現・監督には、来季はチームを指揮してほしくない。クラブから近日中に発表があるだろうけど、もし留任という結論を出すならば、クラブは「プロ・スポーツの仕事」をぼくとは違う考えに置いている、と判断するしかない。

来季は、いわきFCがJ3に昇格してくる。そして、村井チェアマンが「2年後からJ3とJFLの入替が始まる可能性」について言及した。J3では上位をキープするFC岐阜には縁のない話……だろうか。今季J2で下位に低迷しJ3降格圏で苦しんでいるギラヴァンツ北九州は昨季はJ2で5位だったのだ。心してかからねばならない。

かつて、イングランド・プレミアリーグに在籍していたウィンブルドンFCが降格した時、監督だったテリー・バートンは降格決定の試合終了直後のインタビューで「ひとが失敗した時にすることは3つある。それを認め、そこから学び、2度と繰り返さないことだ」との粹な名言を語ったが、J3降格後の2年間の岐阜を思い返すと、「そこから学び」が決定的に欠如していると思えない。欠如しているから「（J2に戻って）2度と（降格を）繰り返さない」にもたどりつけない。（吉田鑄造）

## 編集人から一言。

●まずは、読者の皆様には今季もご愛読いただき、ありがとうございました。

今年も、コロナ禍で大変な1年になってしまいました。昨年に続いて感染拡大防止のためスタジアム内での配布となりました。クラブの配慮に感謝します。いまのところ『岐大通』は続けて発行の予定です。来季もよろしく願います。

確診者数は大きく減少しましたが、新型コロナウイルスとの戦いはまだ決着していません。そして、寒くなると各種ウイルスの活動も活発になります。ゆめゆめ警戒を怠りませんよう。

（編集人・吉田鑄造）